

# 幼稚園に關する新法令に疑義あり

目白幼稚園長

和田

實(投)

お互に明朗に住める世の中になつて、斯んな有りがたいことはありません。是からは役人に抗議して、犬の糞で敵を捕られる心配もなく、腹ふくらませて、不平や不満を我慢する必要もなくつて仕まりました。そこで、小生も遠慮なく疑義や質問を發表して、輿論を喚起して見たいと思ひます。

新法令を見て第一に眼に就くことは、第七章第七十八條に掲げられた五項目ですが其第一項に

健康、安全で幸福な生活のために必要な日常の習慣を養成し、身體諸機能の調和的發達を圖ること

とあつて、精神的諸機能のみ重視して精神的諸機能を度外視したのでらうかと不思議でならない。吾々の信ずる處では、身體的諸機能と精神的諸機能とは其關聯性は非常に密接であつて、結局、身心は一如のものであると云うことの出来るものだと云うことです。此信念からすれば此第一項は「身心諸機能」とす可きではなからうかと思ひます。

次に眼につくことは第三項の

社會生活及事象に對する正しい理解と態度云々

とあつて、自然界の事象に就いては何等觸れて居ないことです、格物致知の必要は單に、社會的事物現象のみではない筈だと思ふのに、殊に、幼兒に採つては、社會的事象よりは自然界の事象の方が、より手近で、より判り易い筈であるから、先ず、自然的事象より始めて其注意を喚起して行くのが入り易く、誘導し易いのではなからうかと思ふのに、茲には、敢えて、之を度外視して居る。是は何とも解し難いことです。是れからの教育上最も必要なことは科學的關心を昂めることです。科學的關心をたかめるためには、自然界の現象に對する態度を先ず誘導することがやさしくもあり入り易くもあり、最も自然な順序で、なめらかに教育が進むのではないかと思ふのに理解の困難な社會的事象のみを對象として自然界の事象を無視して居ることは如何にしても解しがたいことです。

次に、第三に眼につくことは、第五項の

音楽、遊戲、繪畫、其他の方法云々

とあつて、工作を省いて居ることです。抑も幼稚園に於ける工作は、開祖、フレイベルが最も、精神を打ち込んだもので幼児教育上の重要な課目として、幼稚園に於ては傳統的に重んじて居り、我國に於ても、明治九年幼稚園が新設せられて以來、二十恩物の名のもとに、最も、是を重視して來たもので、音楽、遊戲繪畫と當然、肩を並ぶ可き筈であるのに何故に、之を輕視して、單に、其他の方法と云う中に、含めてしまつたのだらうか、不思議なことです。

そして、其上に音楽、遊戲、繪畫其他の方法により創作的表現に對する興味を養うこと、とありますが、是は明かに、日本式教育の從來の仕來たり、其まゝの行り方で相變らず文部省は是等の課目的課程を科することが、創作的發展を期する道だと考へて居るらしいのですが、然りとはいふ盲目なことで、是等の課目に依つて創作的意欲をそゝり其發展が期待し得らるゝものならば、從來の教育でも、充分に、此目的を達することが出來た筈です。然し、從來の教育では、單に、掛聲ばかりで、一向、實績が上らないために、特に、今後の教育に努力したいと云うのであつたなら、更に、一段と他の工夫を要するのではなからうか、是に就いては、吾等は大いに意圖を持つて居るが、今を茲に論ずることは、遠慮して唯、從來、しばし、目的は自由主義でいかなんなど、攻撃されて居つた所以の原因が是迄の保育方法から出て居るのであるのかと云うことを表現することに留めて置きましょう。

以上、三つの點は七十八條中に散見するところのもので、

是も、云わば字句の不完備とか不熟と云う種類の缺陷と見做す可きものかも知れませんが今改めて第七十八條の全體を見直して、著るしく眼につくところの缺陷は、全體に、個性の社會化と云うことに重きを置かれて居ると云うことです。是れはジュニアの教育説を主流として居るアメリカの教育を模倣する以上當然のことではあるが然りとはいふ、餘りに、盲目すぎると思はれることです。吾等の考へでは、個性の社會化をはかる前に、先ず、個性其もの、個性夫れ自身の發展が大事ではないかと思ふのです。先ず個性其もの、發展を期することなくして、個性の社會化のみを考へることは、是は個性の自由なる發展を圖ることなしに個性を、直に、天皇制化し超國家主義化したる從來の抑壓教育と何等變ることが無いと思ふのです。是が果して、新教育の方途であらうか、疑わざるを得ないのです。

以上、四つの疑義が新法令を讀んで直に感ぜらるゝこと、是に關する當局の意圖が奈邊にあるか知りたと思ふのですが、吾等不幸にして未だ其解釋を耳にしない。倉橋教授の新法令解釋講習の速記録には實に、深切に順々と能く説明されては居るが、吾等の疑義については一言も觸れては居ない。昨年十一月の全國保育大會の時に文部當局が新法令に就いて、説明があると云うことで大に期待して居つたところ、案に相違して、教員の待遇問題等で保育の内容には觸れなかつたと云うことであつた。望むらくは世の識者の垂教あらんことを。